

地 元 密 着 通 信

各地区通信員のみなさんから届いた地元のできごとを紹介します！



Jimoto mitchaku
tsushin

あなたの地区ではどんなできごとがあったでしょう。ぜひチェックしてみてください！

マリimba生演奏に包まれ

大

綱木自治会
齋藤信夫通信員



2月16日、大綱木公民館で、34名の参加のもと「大綱木地区新春交流会」が開催されました。今年

は「川俣町は大切な故郷」と話すマリimba奏者の松本律子氏と松本氏が音楽活動で出会ったという「かわまた民話の会」の4名が「マリimbaの生演奏と昔ばなし」と題し、コラポ演奏が披露されました。

昔ながらの川俣弁での民話は郷愁と笑いがあり、そこに柔らかで優しいマリimba（木琴）の音色が重なり会場は感動に包み込まれました。交流会には、藤原町長と高橋議長をお招きし、地区との交流を深めました。



民話とマリimbaの斬新なコラポに包まれ皆さん、うっとりです！



第69回青壮婦老の集い

福

田自治会
三浦栄梨佳通信員



福田公民館事業「青壮婦老の集い」が福田公民館にて開催され今年で69回目を迎えました。各種

団体から推薦された発表者からは、女神山への想い、さまざまな体験から学んだこと、子どもたちの未来とそれに関わる地域活動について、地域を良くしていくために経験から実現させたいことなど、福田地区への熱い思いを聞き、とても心温まる素晴らしい意見発表でした。

年齢や性別など関係なく、地域を良くしたいという気持ちさえあれば、子どもたちへ伝わり、未来の福田を盛り上げてくれると思います。



今できることはなにか！を今一度、考える機会になりました



田んぼリンクの新しい遊び

山

木屋地区自治会
牛田ジユシア昭彦通信員



運営を引き継いでから3回目の冬を迎えた田んぼリンク。昨冬は暖冬で短期間かつ半面が凍るの

がやっとでしたが、今冬は1月18日に全面が凍り、プレオープンができるほどでした。その後は暖かい日や降雪が続き、半面程度で滑るようになったものの、若い世代や子どもたちは笑顔全開で滑っていました。

これまでも氷上玉入れや綱引きなど「冬の遊び」を編み出してきましたが、今回は「氷上ボウリング」ができるエリアを設けました。これも大人気で、次々にボウリング玉代わりの漬物石を投げていました。



今シーズンは2月24日まで開催しました！延べ、1,300人が来場



す

みよし自治会

村上 杪 通信員



雛めぐりで商店街を元気に

2月22日から3月3日まで開催された『絹と蔵の町川俣 雛めぐり』に、すみよし自治会会員の

4軒（蔵座敷3軒、お店1軒）が参加しました。江戸時代・明治時代に建てられた蔵座敷にしえのお雛様や大屏風が飾られ、町内はもとより、福島県内、隣県からいらした大勢の観光客で町中商店街は大いに賑わいました。

普段は川俣町を素通りしてしまうという町内外の方からも「川俣って凄いい！」「絹産業で栄えた川俣町の持つ歴史と文化に触れられて楽しかった」という声が聞かれました。



高橋家住宅段飾り(右)と『源氏物語』が描かれた大内家住宅の大屏風(下)。



飯

坂自治会

佐藤 秀夫 通信員



2025活動開始

飯

坂地区新春の集いが飯坂自治会の主催で行われました。会

長から「飯坂地区各団体のご理解とご協力により、自治会活動も地域活性化に向けた取組をしてきました。今年も微力ながら進めます」と挨拶がありました。来賓との懇親会では、各団体と自治会諸先輩の協力と繋がり、取りまとめる方々の地域の現状把握と目くばせが今後も重要であることが話題となり、懇親会は、情報交換とお互いの協力について確認する場となりました。

今年も自治会は、各団体と共に地域の支えとして活動開始します。



2025年も地域の皆さん、どうぞよろしくお願ひします！



福

沢自治会

菅野 奈美子 通信員



第25回目の春が来た！

3

月9日、羽山の森美術館の体育館で第25回スプリングフェ

スタinふくざわを開催しました。ステージには、ルピナス・チューリップ・水仙など沢山の鉢花が自治会会員の協力により飾られました。ステージは、高橋敏明自治会長挨拶、来賓祝辞紹介の後開演しました。

出演者は、下は8歳から上は98歳と幅広く、演奏やダンス、歌など素晴らしい祭典となりました。舞台を飾った春の桜や鉢花は、お楽しみ抽選会で来場された観客の皆さんにプレゼントしました。会場は終始、ひと足早い春の暖かい陽気に包まれました。



福沢スポーツ少年団によるダンスの披露です！

小

島自治会

落合 幸男 通信員



「災害と避難」の講習会

2

月16日、小島地区自主防災会

は「防災講習会」を開催しました。NPO法人福島防災士理事梶谷俊史氏を講師に迎え、小島地区の住民約50名が参加しました。

内容は、川俣町の防災マップを基本とし、過去の災害、とりわけ小島地区は令和元年の台風による水害で大きな被害を受け、一時的に約70人を超える避難を経験したこともあり、出席者は真剣な表情でメモを取るなどして、自分たちは何をまずすべきなのかを学びました。小島地区は、皆が助け合いながら避難し、安全を確保する重要性を強く感じました。



自分の身を守るための知識として、避難のルート・備品・持出し品・季節に合わせた入替えが必要です！